

反原発全国署名にご協力を！ 脱原発！の声をあげよう

東日本大震災によって福島第1原発において、一度に4基もの原子炉が危機的な状況に陥るといふ、チェルノブイリ事故に匹敵する大事故を起こしてから1ヵ月以上が過ぎました。しかし、事態は未だに収束の見通しも立たず、海にも空にも放射能がまきちらされて、むしろ悪化の一途をたどっているようです。チェルノブイリのときでさえ、2週間で放射能の放出を封じ込めたことを考えれば、かつてない深刻な事態です。

この危機から脱出して原子炉をとりあえず安定させるには、外部電源を復旧させ、少なくとも今のようにポンプ車で注水を続けるのではなく、冷却水を循環させて「冷温停止」の状態にしなければなりません。ところがその工事が必要なタービン建屋内部には高濃度の放射能汚染水が大量にたまっていて容易に近づくことさえできず、それどころかその汚染水の除去すら難航しています。その過程では、国が定める濃度限度の100倍以上の濃度の汚染水が1万トン以上も意図的に海に放出されたうえ、高濃度の汚染水も流出していました。もちろん、肝心の核燃料の状況はじめ原子炉建屋の内部は未だに確認すらできておらず、予断を許さない事態が続いているのです。

原発事故と震災被害が二重に襲い掛かってくる事態、これまでに心ある専門家がくりかえし警告してきた「原発震災」が現実のものとなった今、「地震大国・日本」では、すみやかにすべての原発の運転を停止し、エネルギーを原子力に依存する社会の転換を強く推し進めるべきではないでしょうか。

反原発全国署名で“脱原発！”の大きな声を届けましょう！ ご協力をよろしく願います。

アジェンダ・プロジェクト 京都

〒601-8022
京都市南区東九条北松ノ木町 37-7
Tel&Fax 075-822-5035
URL <http://www3.to/agenda/>

◆これ以上原発の被害を出さないために、声をあげよう！

福島第 1 原発の事故は、多くの人々の人生を大きく変えてしまいました。現在、現地で原子炉と懸命に格闘を続けている作業員の人々も、まさかこれほどの被曝を伴う危険な作業を強いられるとは思っていませんでした。避難区域に指定された原発周辺住民の方々も、いきなり仕事も暮らしも奪われてしまいました。住み慣れた土地にいつ戻ることができるのか、今はまだ全くわかりません。海や空にたれ流され続けている放射能による土壌や水の汚染は、農業や漁業に「致命的」とも言える打撃を与えています。「ただちに健康に影響はない」といくらくり返されても、これらはもう、どうしようもありません。

なぜこんなことを強いられなければならないのでしょうか？ 地震や津波を私たち人間がなくすことはできません。しかし、原発事故と放射能汚染はなくすことができるし、避けることができました。原発をやめていれば良かったのです。発電手段は他にもあります。あえて原発というリスクの大きい、私たちの人生を一瞬にして変えてしまうようなことを、今後も電力会社にやらせ続けるべきでしょうか？ 原発を続けるということは、彼らに私たちの運命を委ねてしまうことになるのです。今回の事故で福島県民が身を持ってそのことを証明しました。そんな権利を電力会社に与えてしまっているのでしょうか？ いいはずがありません！

それだけではありません。福島原発事故が日本経済に与えている被害は計り知れません。さらに、なんとか原子炉を「安定」させたとしても、半永久的にこのまま安全に管理し続けなくてはなりません。そんな負の遺産を後の世代におしつけるのはこれっきりにするべきではないでしょうか？ この間、東日本を中心に地震が続いています。大惨事がくり返される前に、浜岡原発（静岡県）や若狭湾（福井県）にある原発も止めるべきです。特に地震に弱く、大量のナトリウムを使用しているがゆえに大事故が起きれば全く手のほどこしようなない、高速増殖炉「もんじゅ」は即時廃炉にすべきです。

今こそ“脱原発！”の声を大きくあげ、原発を動かし続けようとする政府・官僚・電力会社等の無責任な動きに断固反対しましょう！原子力からの撤退を前提にしたエネルギー政策の転換をかちとりましょう！（2011年4月17日）